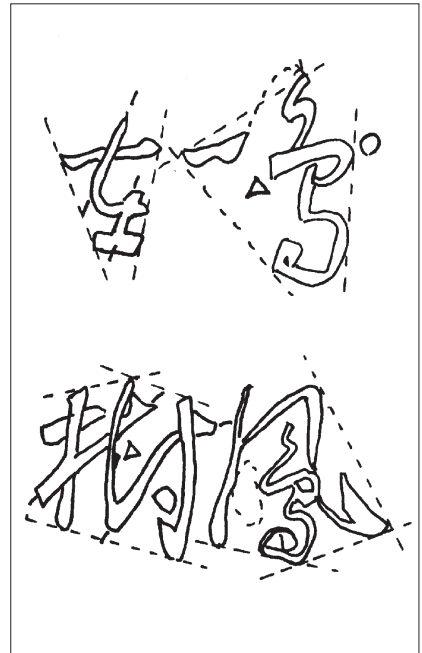


◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料440円



草書千字文・唐 懷素

1、字句「鳴鳳在樹」
 2、形式「半紙タテ使用。右に「鳴鳳」左に「在樹」と臨書し、左余白に「○○臨」と調和を工夫して書き入れる。

3、概観「○揺れと強いハネ出し」
 懷素の草書千字文には、収筆で強いハネ出しする文字がいくつか見られるが、その前画は、共に細線で揺れた線となっている。この千字文は、どちらかというと遅筆によると思われるが、この揺れる細線は、遅筆でなければ書けない線である。ちなみに、速筆で細線を書こうとすれば、筆線は決して揺れることはない。この揺れる細線の後、そのままハネれば非常に弱いハネとなる。その為、ハネる時ゆっくり筆圧を加えてから押し出すとこのようなハネとなる。また、この揺れる細線は、他にも多く見られる(上掲の図版)。このことから、千字文は遅筆で書かれた部分が多いと思われる。

4、各字のポイント
 鳴 「口」偏から旁の一画目に意連。△で筆を突き裏面にて運筆し、○で表面に。
 鳳 一画目の起筆は蔵鋒による。徐々に押ししてゆき、筆線の中をもどるようにして二画目に、転折の後揺筆により運筆、ゆっくりと筆圧を加え押し上げる。「鳥」を右側によせ、左に余白をとって多画数による煩瑣さをなくしている。
 在 結体は扇形。下部の小さい構と太い線により上の余白をよく活かしている。
 樹 縦画と左下から右上に書く線による構成だが、それぞれ変化させている。「亠」△の部分で微妙に右に振っているのを見逃さないように。

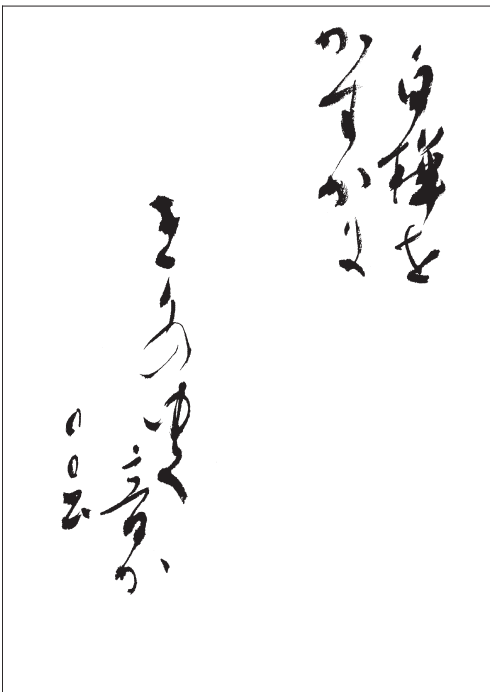
半紙課題(予告) (九月二十二日締切)

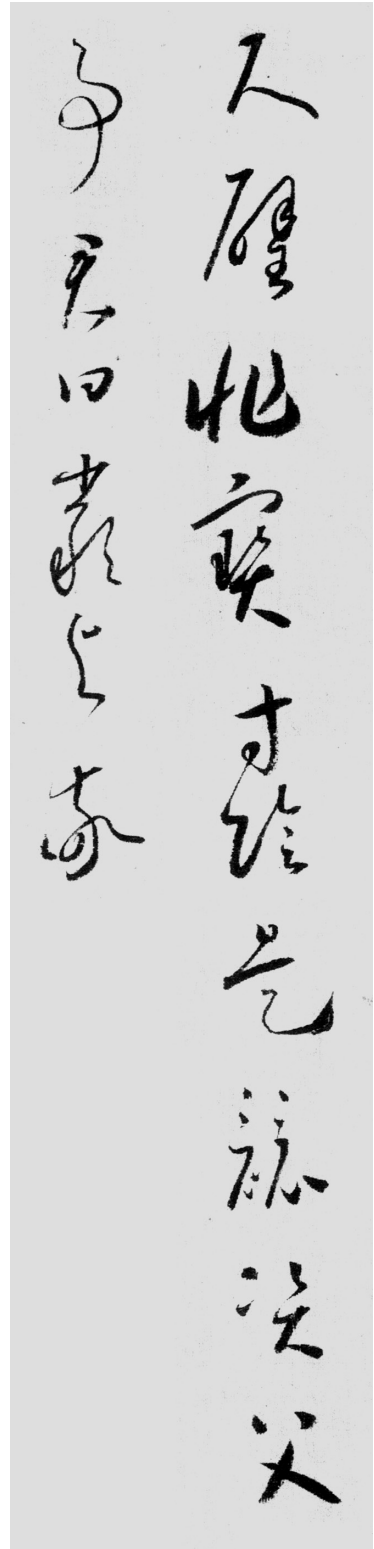


平岡華雪先生書 茶香秋夢の後(許渾)

訳：夢さめて茶の香高く、(夕方に詩を吟する時、松声ひびく。)

平岡華雪先生書 白樺を幽かに霧のゆく音か(秋桜子)





尺璧非宝。寸陰是競。資父事君。曰嚴与敬。
尺璧は宝に非ず、寸陰を是れ競うべし。父に資り君に事うるに、曰く嚴と敬。
君子は一尺もある珍宝も宝とせず、一瞬の時間をも惜しんで学ぶのである。父に仕えるやり方で主君に仕える。そこには嚴肅さと尊敬の念がある。

※随意部参考（半紙・条幅）としてもご利用下さい。抜粋可。随意部半紙は無料。
条幅部は一枚目無料、二枚目から五五〇円。
バーコード券に「条臨」とご記入下さい。名簿は条幅部で「(臨)」と表示されます。

一字書（八月二十二日締切）

課題

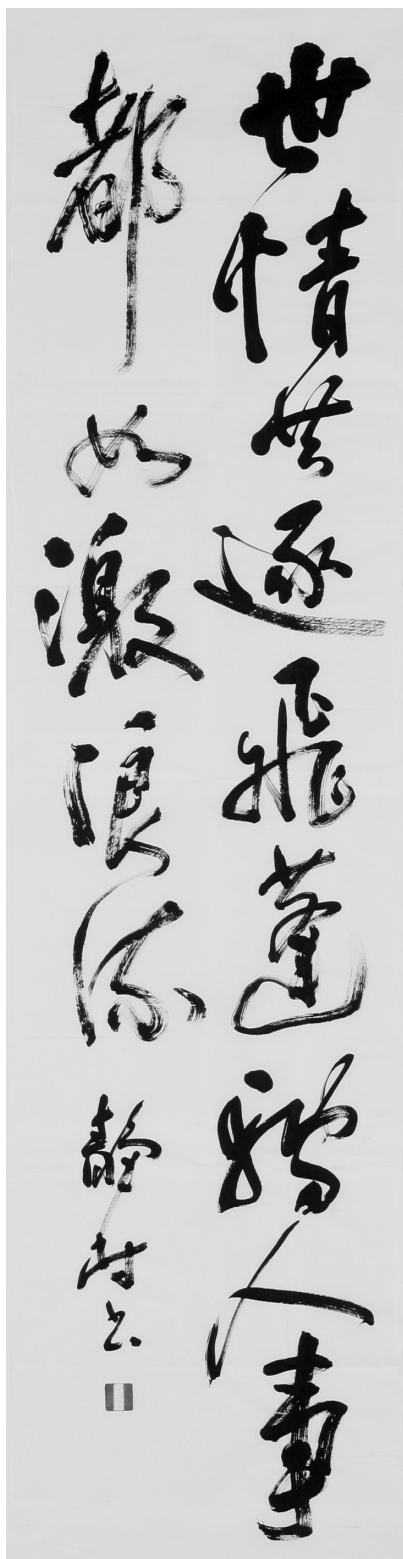
陵

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に
一字と記入 段級は無記入

A

鈴木静村先生書

世情共逐飛蓬轉 人事都如激浪流 (孔文仲)
世情共に飛蓬を逐うて転じ、人事都て激浪の如く流る。



B

高橋香樹会长書

今回のねらいは、字々の「意連」と「字幅」の打ち出しによるボリューム感。「意連」については、連綿の細線を真似るのではなく、つながりの気脈こそ第一。世末画から情第一画へ意連。情の末画から共横画へ意連。逐之繞を大きく暢びやかに。飛筆順に慣れを。草体を使うことも可。字典で調べる確に。蓬之繞を変化。轉草体。人大きく字幅。都末画長くゆったり。激この書体古典に多い。浪縦長くして流へ意連。



今回の課題では、最後の三字が共に「三ズイ」で、この連続する「三ズイ」を如何に処理するかが腕の見せ所。色々試みてみたが、最後はこの形となった。連綿は、二字連綿が一行目に三ヶ所。なるべく目立たないようにと配慮した。墨継ぎは「轉」と「如」。

訳：世の中の実情は、風に飛ぶ蓬のように変わり、人間社会は、激しい水の流れのようである。

予告 昇試第一部漢字 (九月二十二日締切)

一雙遠岸釣魚艇

三尺近邨沽酒帘

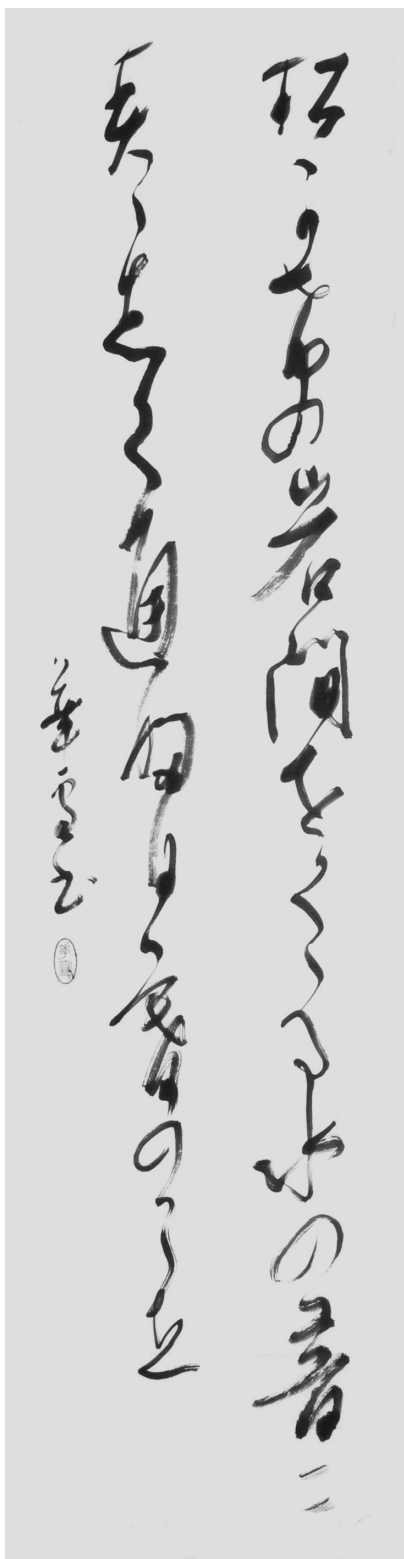
(彭汝礪)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

A

平岡華雪先生書

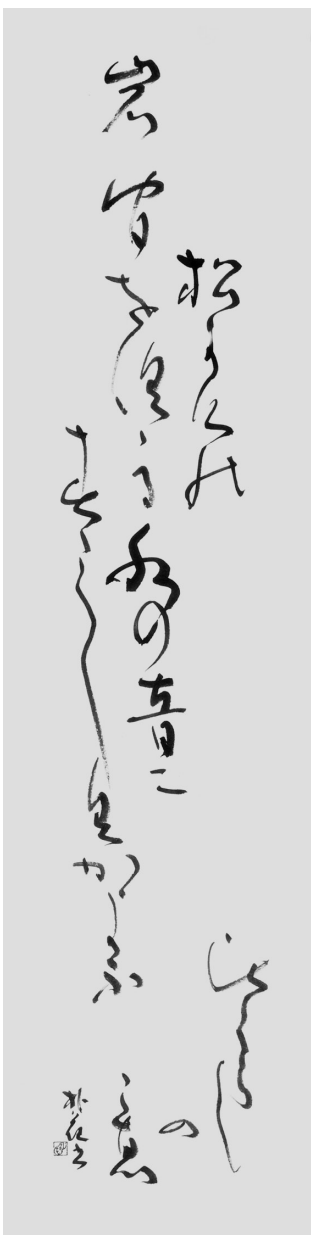
松かげの岩間をくぐる水の音に涼しく通ふひぐらしの聲 (式子内親王集)
松可希の岩間を久ゝる水の音二春、志久通婦日暮のこ恵



B

向山朴花先生書

松可介能岩間を俱ぐる水の音二春、之具かよふ比くらしのこ恵



学び方

松の木蔭に、岩間をかくぐって流れる水の音に、涼しく溶け合い響き合うひぐらしよ、との歌意。歌と出合い、歌人とその歌意を知った時、湧き出てくる思いを紙面に散らして書作してみようと、いつも思います。古典の女流歌人、情趣豊かな夏の歌、「涼しく通ふ」という言葉から、涼し気な表出を、と心がけたつもりです。頭に「松」「岩間」と、重たい漢字があるのですが、その三文字は全て生かしたいと思いました。文字の塊を上下にし、逆勝手の散らしです。下の分量は少ないのですが、終句の「ひぐらしのこ恵」を際立たせました。上下が分断されることなく、自然な流れの中で、響き合う表現になっていればいいなと思います。

式子内親王は、平安時代後期から鎌倉時代初期の女流歌人。父は後白河天皇、母は藤原季成の娘成子の第三皇女。生涯独身を通し、出家し法然に帰依。
和歌は藤原俊成に学び、新古今時代の代表的歌人。歌風は哀愁に満ち、情熱を内に秘めた気品の高い作品が残されている。歌集「式子内親王集」は、百首歌三編に、勅撰集入集歌を添えたもの。

予告 昇試第一部かな (九月二十二日締切)

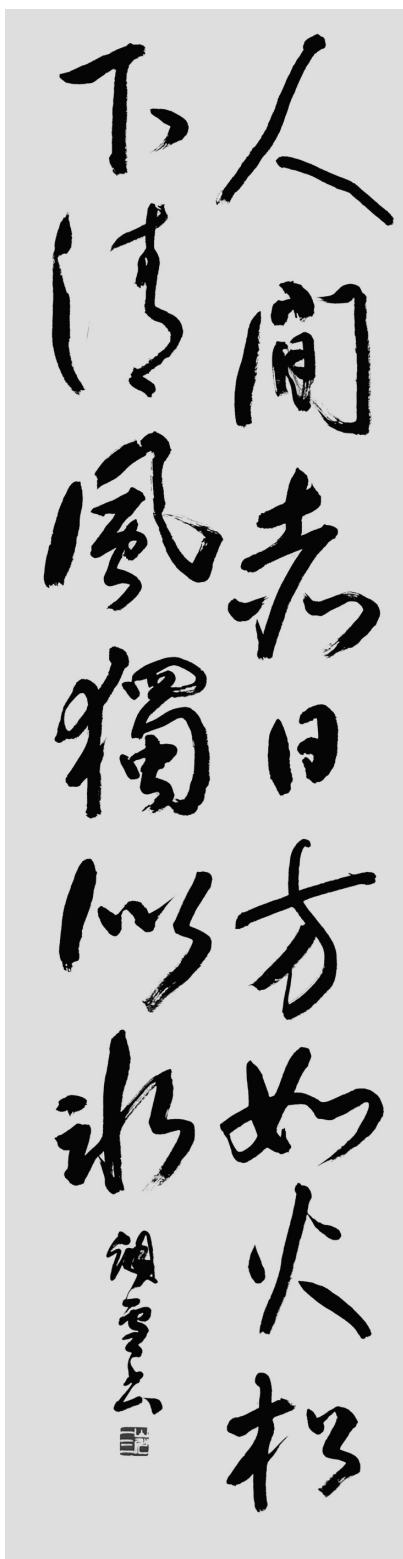
ゆく雲の影かと思はすゝき原をりをり風のわたるなりけり (入江為守)

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条 幅 部 随 意 参 考

加藤 洞雪 先生 書

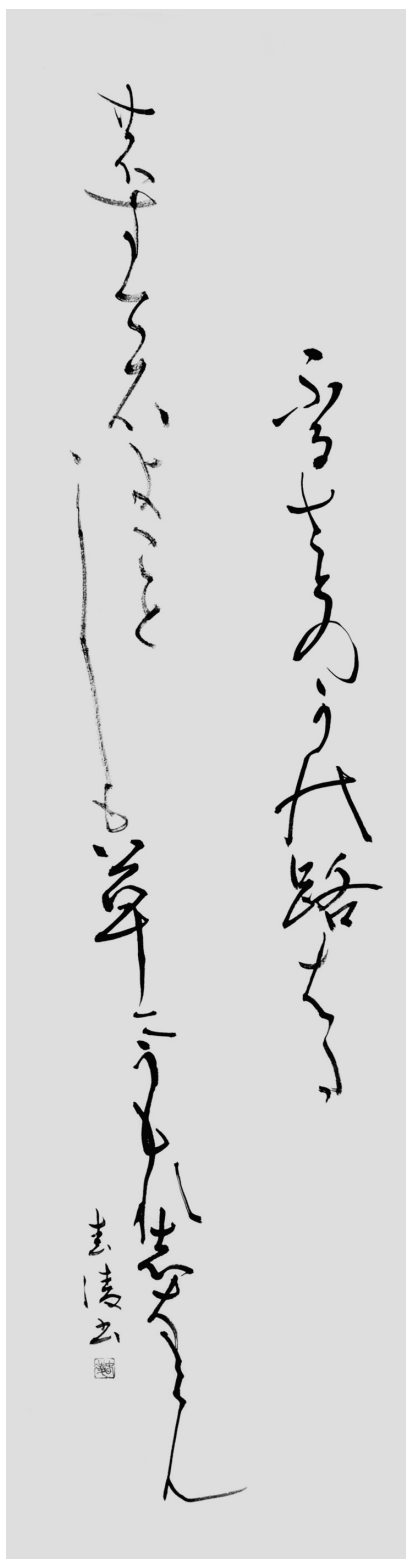
人間赤日方如火。松下清風獨似水。(楊誠齋)
 人間の赤日方に火の如く、松下の清風独水に似たり。



訳：この世の夏の日はあたかも火のようであるが、松の小かけには清風絶えず水よりも涼しい。

武井 春凌 先生 書

ふるさとのかの路傍のすて石よ今年も草に埋もれしならむ (石川啄木)
 ふるさとの可能路者多農すて石よことしも草二うもれ志奈ら无



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

水貝潮華先生書

向日葵は金の油を身にあびて
ゆらりと高し日のちひささよ

前田夕暮



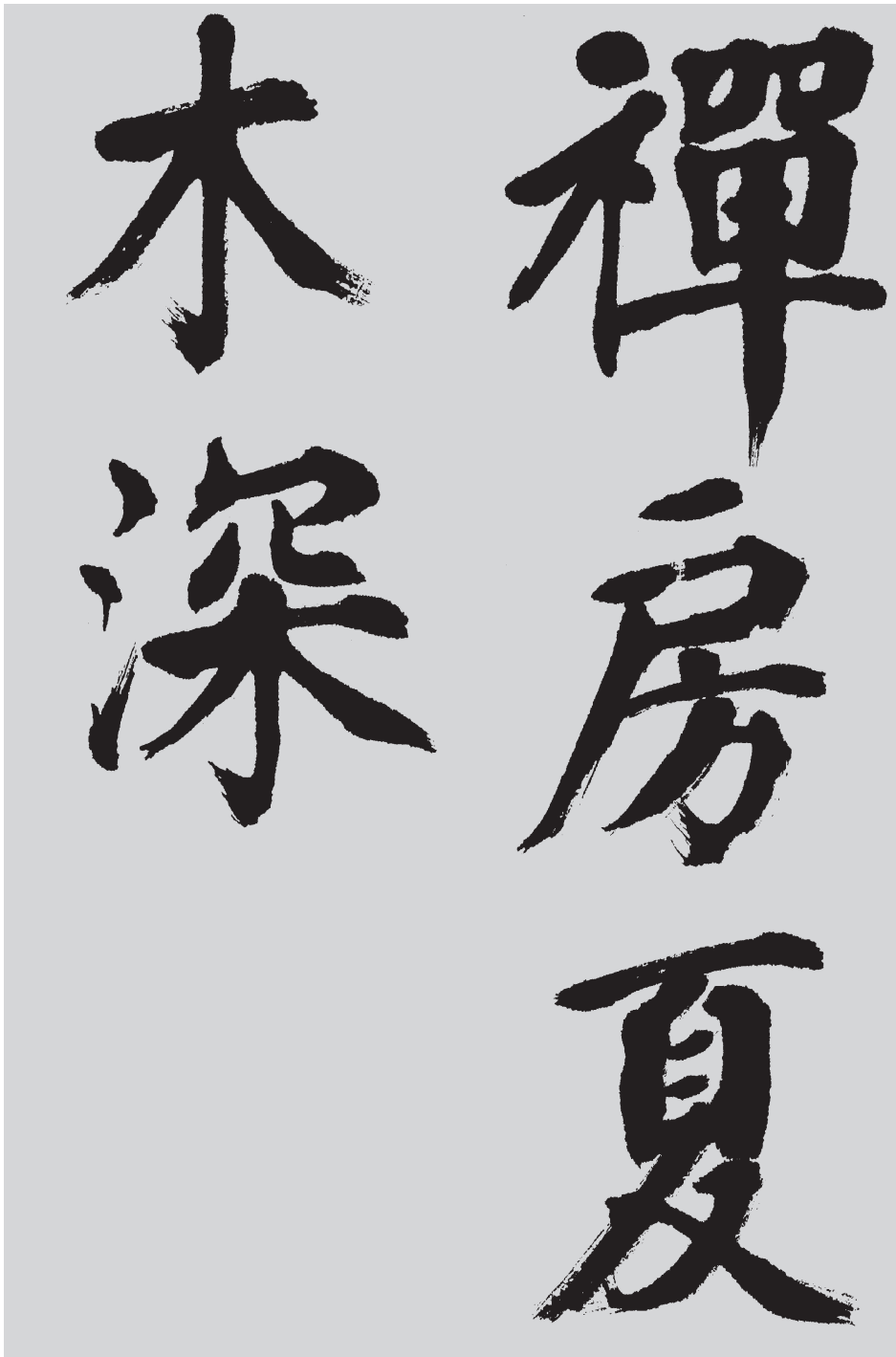
今月の課題作品は、前田夕暮の「向日葵」の歌を選んでみました。この歌は「ゆらりと」の一句によって読者に「向日葵」をイメージさせる重要な働きをしています。この「ゆらりと」を中央に配し、起承転結となるように構成しています。
この歌は「ゆらりと」をどう表現するかが鍵です。今回は厚手の唐紙に、イタチ毛の長鋒筆を使い、キリッとした線の作品にしました。勿論、潤渴もはつきりとつけています。

す。皆さんは「ゆらりと」を色々な表現で試みて下さい。

前田夕暮（一八八三〜一九五一）
歌人。神奈川県南矢名村生まれ。尾上柴舟に師事、やがて若山牧水とともに自然主義短歌の旗手的存在となる。「詩歌」を創刊。後に北原白秋の「日光」創刊に加わり、口語自由律短歌も試みた。歌集「収穫」など。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料550円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

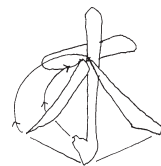
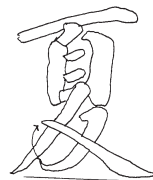


平岡華雪先生書

禅房夏木深し(裴迪)

訳：禅寺に夏木立ちが樹蔭を深くしている。

「夏、木、深」の末画(右払い)は各字の主画、のびやかに。

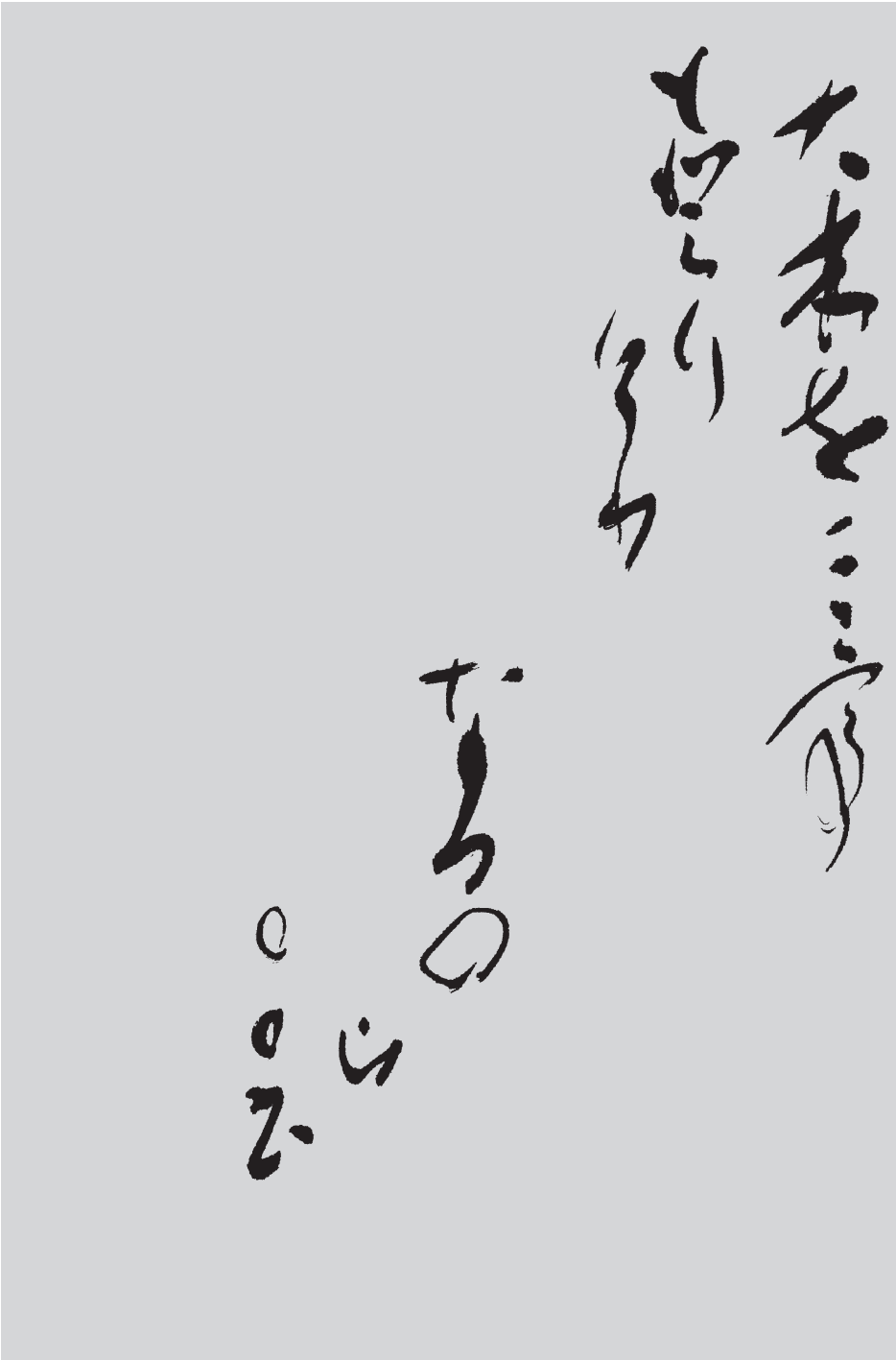


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

大木を見てもどりけり夏の山 (関吏)
大木を三亭も登り公利なつの山



〈リズムこそかなの生命〉
手本は左余白を大きくした華雪先生独特な手法。散らしは、「本阿弥切」に見られる、行頭左下がりが、勁い線のひびき合いによって、余白への働きかけを大にしている。要は思い切り自己を打ち出してほしい。特に、中七の変体がな五文字はこの作の主調——。下五は落款のメを含め、ホッと心休まる筆意と散らし。大いに鑑賞を。

予告 昇試第二部かな (九月二十二日締切)

ききそめし秋にもましてさびしきはみぞる暮の雁のひと声 (香川景樹)

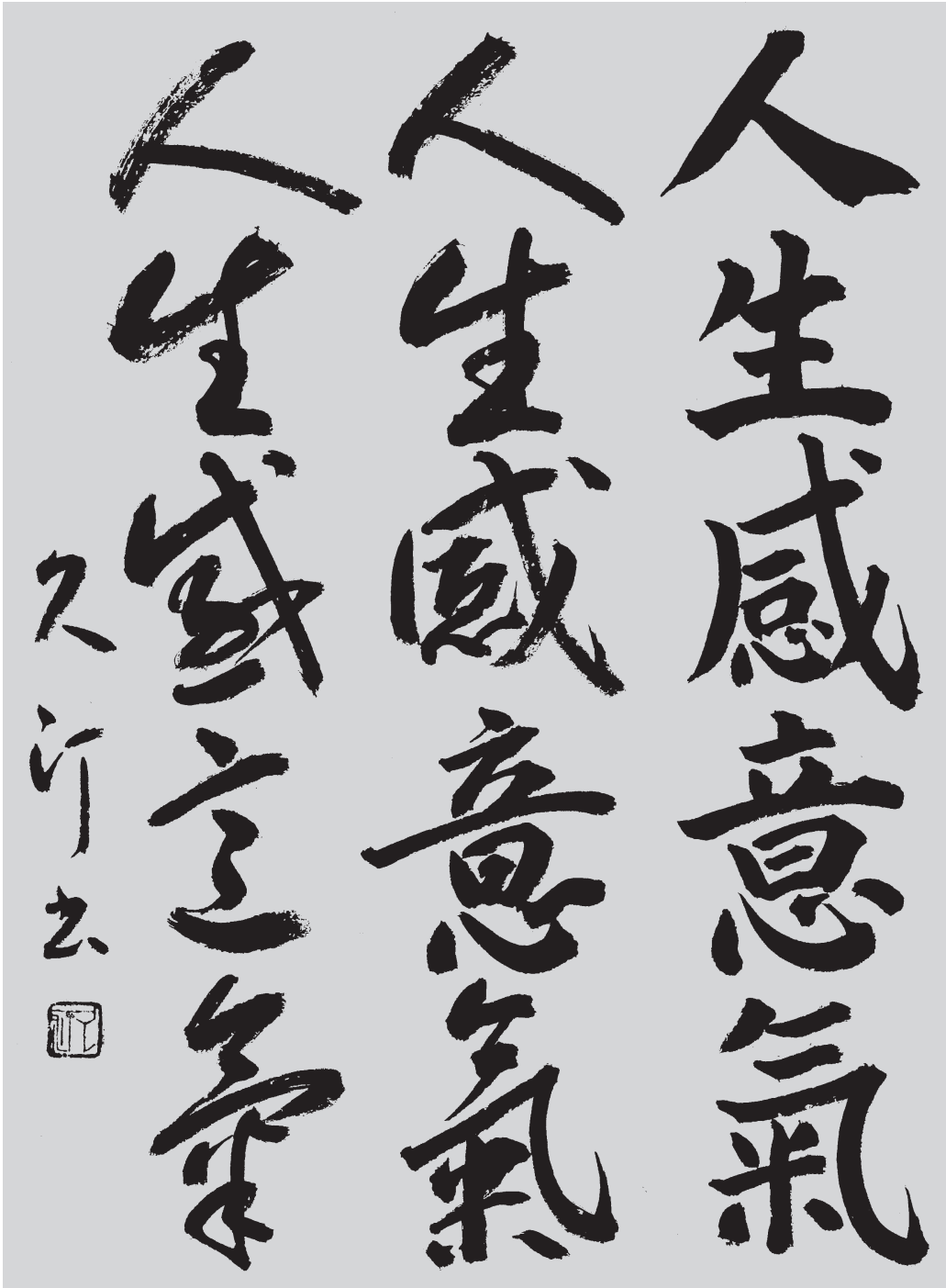
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

笹崎久汀先生書

人生感意氣（魏徵）
人生意氣に感ず

訳：人は心意氣を感じて（行動するもの）。



予告 昇試第一部漢字（九月二十二日締切）

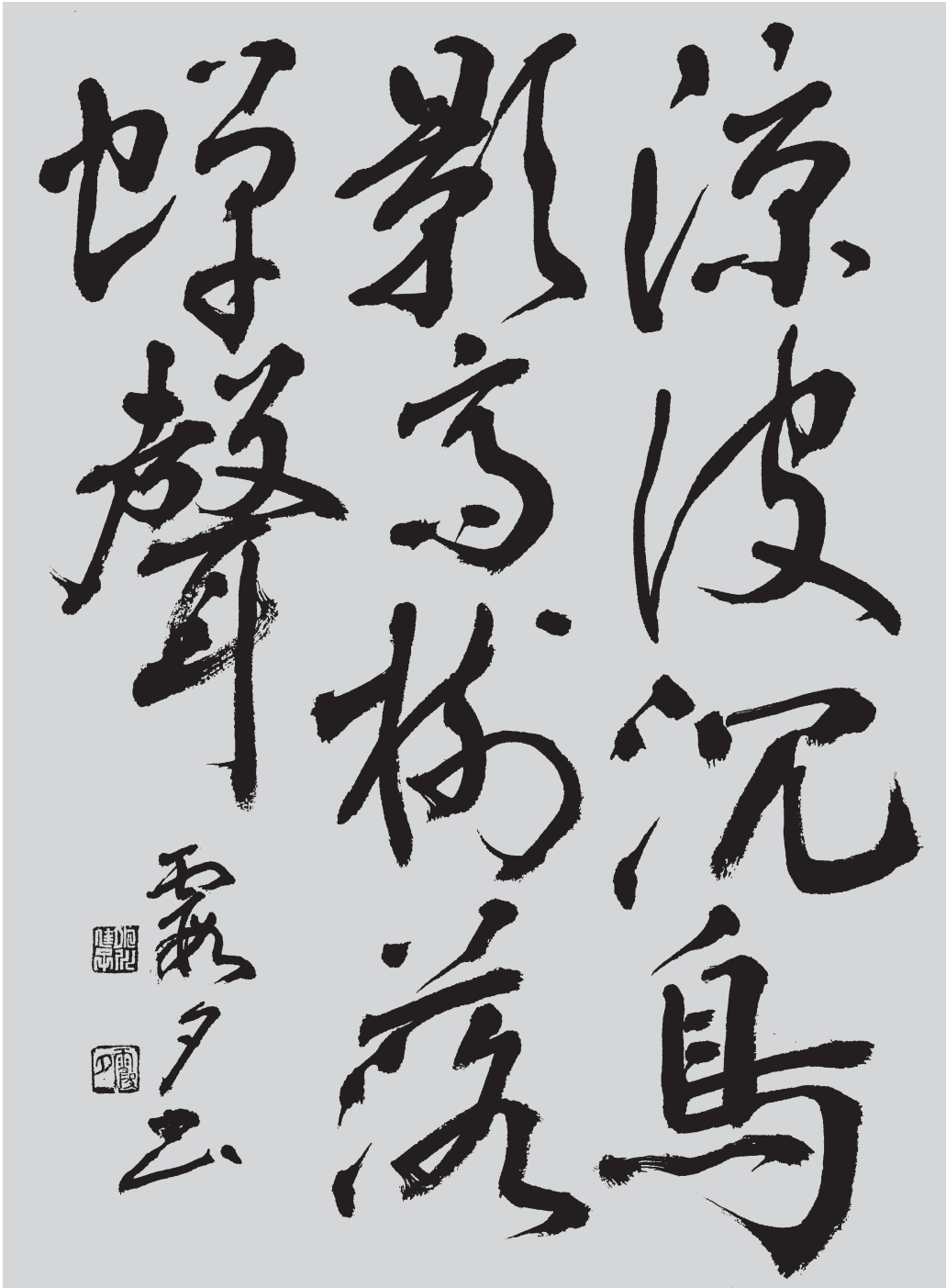
功名誰復論（魏徵）

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円。

随意部参考

外川霞夕先生書

涼波沈鳥影 高樹落蟬聲（潘奕雋）
涼波鳥影沈み、高樹蟬声落つ。



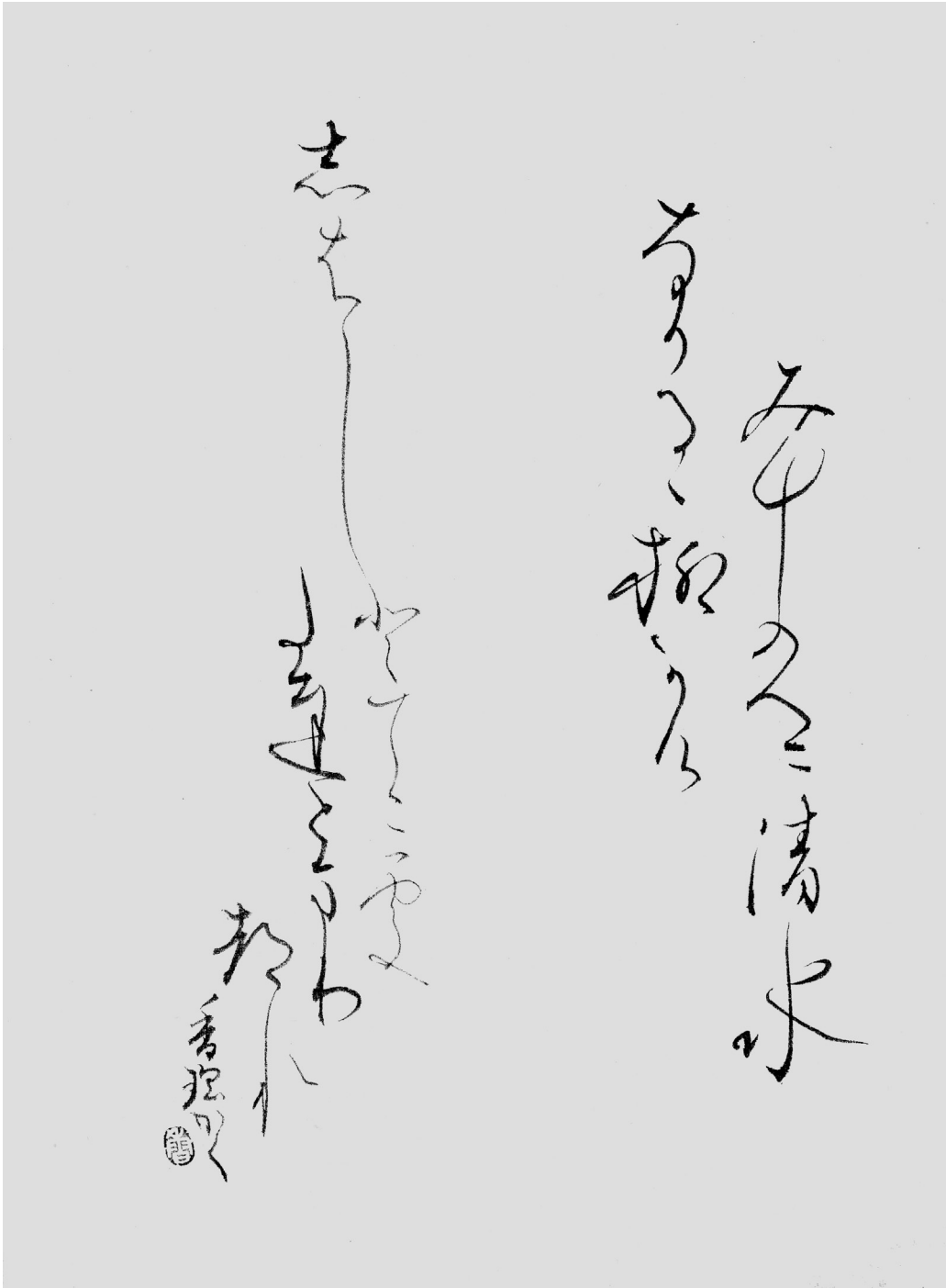
訳：涼しい夏の波には浮ぶ鳥の影が沈んで見え、高い樹にはせみの声が落ちてくる。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円

随 意 部 参 考

内藤香瑶先生書

道のべに清水ながるゝ柳かげしばしとてこそ立ちとまりつれ (西行法師)
み千のへ二清水奈可るゝ柳可公志者し登てこ處多遅と万利都れ



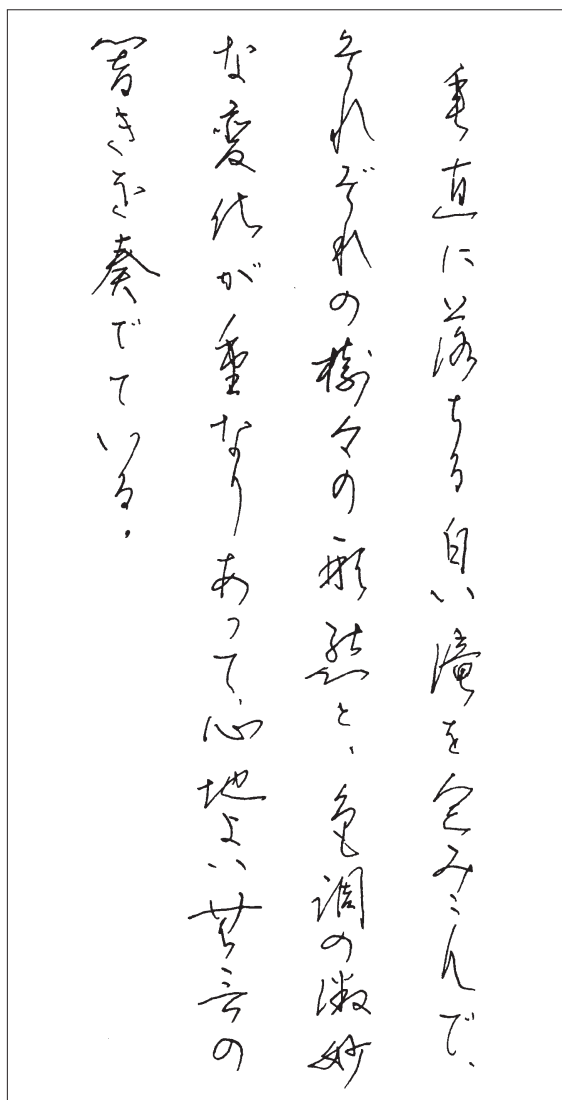
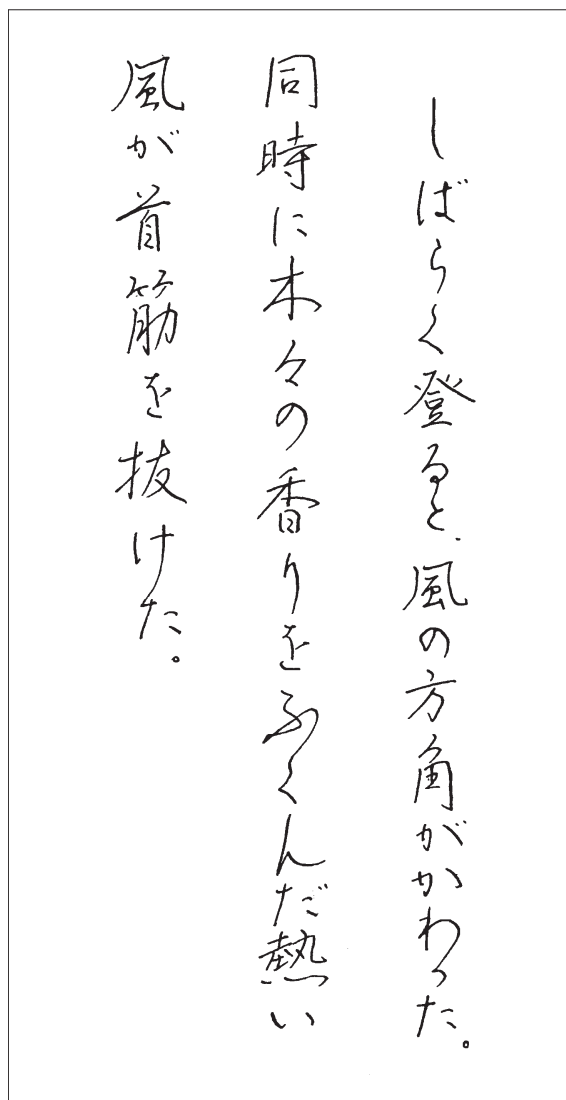
1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円

湯澤春翠先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

垂直に落ちる白い滝を包みこんで、それぞれの樹々の形態と、色調の微妙な変化が重なりあって、心地よい無言の響きを奏でている。

「東山魁夷の世界」青説

解説 星野良史

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題2 (初段階以下)

しばらく登ると、風の方角が変わった。同時に木々の香りをふくんだ熱い風が首筋を抜けた。

「志賀越みち」 伊集院静